

歴代・アメリカ合衆国大統領（赤字は暗殺された大統領）

No	名前	就任年	コメント
01	ジョージ・ワシントン	1789年 無所属	アメリカ合衆国の初代大統領。「建国の父」として首都や州名などにその名を遺している。ワシントンD.C.で政務をとらなかつた史上唯一の大統領である。 【補足】なお、ワシントン自身は、1781年から1782年に連合規約下の連合会議議長（President）として初めて任期を全うしたジョン・ハンソンを、最初のアメリカ合衆国大統領（President）と考えていた。
02	ジョン・アダムズ	1797年 連邦党	初代副大統領および第2代大統領。アメリカ海軍創設者。彼の息子ジョン・クインシー・アダムズは第6代アメリカ合衆国大統領
03	トーマス・ジェファーソン	1801年 民主共和党	独立宣言起草委員としてアメリカ独立宣言を起草した。大統領在任中にミシシッピ川以西のルイジアナをフランスから買収し西部発展の礎を築いた。
04	ジェームズ・マディソン	1809年 民主共和党	「アメリカ合衆国憲法の父」と呼ばれ、対外宣戦布告をした初の大統領である。
05	ジェームズ・モンロー	1817年 民主共和党	フロリダの獲得（1819年）、ミズーリ協定（1820年）、アメリカの孤立主義政策を象徴するモンロー主義の発表（1823年）で有名である。
06	ジョン・クインシー・アダムズ	1825年 民主共和党	第2代大統領ジョン・アダムズの息子。最初の親子二代の大統領。大統領として初めて長ズボンをはいた。
07	アンドリュー・ジャクソン	1829年 民主党	ホワイトハウスで連続2期を勤めた最初の大統領。「インディアン強制移住法」を定めた。史上唯一、議会から不信任決議をされた大統領である。
08	マーティン・ヴァン・ビューレン	1837年 民主党	1837年に起こったアメリカ初の大恐慌など、任期中の数回の恐慌に対しても無策であった。独立宣言署名後に生まれた最初の大統領。
09	ウィリアム・ヘンリー・ハリソン	1841年 ホイッグ党	68歳で大統領に就任し、在任期間わずか1ヶ月で死去した。独立宣言前に生まれた「生粋のアメリカ市民」でない最後の大統領。
10	ジョン・タイラー	1841年 ホイッグ党	独立宣言後に生まれた二人目の大統領で、大統領の死に際して副大統領から昇格した最初の大統領。
11	ジェームズ・ノックス・ポーク	1845年 民主党	テキサス共和国の合併、イギリスとのオレゴン境界論争の解決、独立した財務システムの再建、メキシコからカリフォルニア、ニューメキシコ、アリゾナ、ネバダ、ユタ、コロラドの一部およびワイオミングの領域を獲得した。4年間の職務で疲れ果て離職後4ヶ月に満たない内に53歳で死去した。
12	ザカリー・テイラー	1849年 ホイッグ党	大統領就任の16ヶ月後にコレラで死去。在職中に死去した二人目の大統領である。第4代大統領のJ・マディソンのまた従兄弟である。米英戦争（1812年 - 1815年）、ブラック・ホーク戦争（1832年）および第二次セミノール戦争（1835年 - 1842年）で戦った職業軍人である。
13	ミラード・フィルモア	1850年 ホイッグ党	大統領の死により副大統領から昇格した二人目の大統領。重要な功績の一つはマシュー・ペリー提督を日本に派遣し、日本の開国と貿易を開始したことだった。また、フランスの干渉があったハワイ王国（当時イギリス保護領）を自国の影響下に置くことに成功した。
14	フランクリン・ピアース	1853年 民主党	民主党から大統領に選ばれ、1853年3月4日から1857年3月3日まで在任。公私にわたり不遇で、3人の子供を早くに亡くしている。民主党の指名を失った後、極度のアルコール依存に陥り、1869年10月8日に肝硬変のためコンコードで死去。
15	ジェームズ・ブキャナン	1857年 民主党	結婚しなかつた唯一の大統領で、ゲイとの風評もあった。1859年（安政6年）には、日本の江戸幕府における神奈川奉行兼外国奉行で、日米修好通商条約批准書交換使節として渡米した新見正興と謁見した。大統領として特に実績のない彼にとっては、歴史舞台上に登場する数少ない出来事である。
16	エイブラハム・リンカーン	1861年 共和党	初の共和党大統領。「奴隷解放の父」と呼ばれた。奴隷制に反対した彼の大統領就任により、アメリカ合衆国は「南北戦争」に突入し、北部連邦（北軍）を南部連合（南軍）に対する勝利へ導いた。1863年にゲティスバーグ國有墓地の奉獻式場で述べた演説の一節「人民の人民による人民のための政治」という言葉が有名である。暗殺された最初の大統領である。
17	アンドリュー・ジョンソン	1865年 民主党	大統領の死により副大統領から昇格した三人目の大統領。史上最悪の人種差別主義大統領といわれ、常に連邦議会と対決する頑固さと

			傲慢さから、29 回もの拒否権を行使している。
18	ユリシーズ・シンプソン・グラント	1869 年 共和党	アメリカ史上初の陸軍士官出身の大統領。1872 年には、アメリカを訪問した岩倉使節団と会見した。軍人としては成功した將軍だが、大統領就任後のスキャンダルおよび汚職疑惑によってアメリカ最悪の大統領のうちの一人である。荒廃した南部の再建および先住民(インディアン)対策に失敗し、支持が急落した。
19	ラザフォード・バーチャード・ヘイズ	1877 年 共和党	大統領選挙において、史上最も僅差で勝利した大統領である。一般投票で負け、選挙人投票で 1 票差で勝ち当選した。この結果、彼は、「イカサマ閣下」という蔑称を授けられることとなった。大統領としては大した実績はなかった。
20	ジェームズ・アブラム・ガーフィールド	1881 年 共和党	暗殺された二番目の大統領。彼の任期はウィリアム・H・ハリソンに次いで短く、6ヶ月と15日であった。猟官運動を徹底的に排除し、適正な公務員改革を推進した。このことが暗殺の遠因といわれる。
21	チェスター・アラン・アーサー	1881 年 共和党	大統領の死により副大統領から昇格した四人目の大統領。美食家でお洒落な人物で、シャネルらにホワイトハウスの改装をさせ、連夜パーティーを開いた。
22	スティーヴン・グロバー・クリーブランド	1885 年 民主党	第 22 代および 24 代アメリカ合衆国大統領(任期: 1885 年 - 1889 年、1893 年 - 1897 年)。アメリカ史上、カムバックを果たした唯一の大統領である。
23	ベンジャミン・ハリソン 6 世	1889 年 共和党	祖父は第 9 代大統領ウィリアム・H・ハリソン。父は第 5 代バージニア州知事で、アメリカ独立宣言署名者のベンジャミン・ハリソン 5 世。
24	スティーヴン・グロバー・クリーブランド	1893 年 民主党	カムバックを果たした大統領。強大大統領論者で、細部にわたるまで自分で決定する性格で、ブレーンをおかずメディアとの接触も避け、孤高を貫いた。
25	ウィリアム・マッキンリー	1897 年 共和党	暗殺された三番目の大統領。1900 年に再選されたが翌年にパン・アメリカン博覧会会場で無政府主義者レオン・F・チョルゴッシュに銃撃され、9 月 14 日に傷が元で死去した。アラスカ州にある北米大陸の最高峰マッキンリー山は彼にちなんで命名された。
26	セオドア・ルーズベルト	1901 年 共和党	大統領の死により副大統領から昇格した五人目の大統領。なお就任時の 42 歳と 10 ヶ月は史上最年少である。対外的には海軍力を盾に「棍棒外交」を推し進め、日露戦争後は艦隊を日本に寄港させ強大化しつつある日本を牽制した。第 32 代大統領フランクリン・ルーズベルトは彼の従兄弟に当たる。
27	ウィリアム・ハワード・タフト	1909 年 共和党	歴代大統領中最大の巨漢(160kg 近くあった)であり、ホワイトハウスのバスタブに体がはまり込み、出られなくなったことがあるという。大統領在職中に東京市長尾崎行雄から贈られた「ポトマック川河畔の桜」は有名である。
28	トーマス・ウッドロウ・ウィルソン	1913 年 民主党	政治学者であり、第 7 代大統領アンドリュー・ジャクソンの次にホワイトハウスで連続 2 期を勤めた二人目の大統領。ニュー・フリーダムと呼ばれる進歩主義的国内改革を実行した。第一次世界大戦に対してアメリカ合衆国を中立の立場に保ち、それは 1916 年の彼の再選に寄与した。
29	ウォレン・ガマリエル・ハーディング	1921 年 共和党	大統領に選ばれた最初の現職上院議員であり、在職中に死去した六人目の大統領。予算会計法を成立させ、今日の年度予算案の審議システムをつくった。
30	ジョン・カルビン・クーリッジ	1923 年 共和党	大統領の死により副大統領から昇格した六人目の大統領。1924 年に大統領に再選された。そして任期中に新媒體のラジオを利用し、ラジオ史に残る演説を行った。彼の就任式はラジオで放送された最初の大統領就任式になった。
31	ハーバート・クラーク・フーヴァー	1929 年 共和党	就任直後の「世界恐慌」に対して、「不況はしばらくすれば元の景気に回復する。」という古典派経済学の姿勢を貫き、世界恐慌に対して有効な政策が取れないまま、1933 年の任期満了をもって大統領職を退き政界から引退した。
32	フランクリン・デラノ・ルーズベルト	1933 年 民主党	政治学者。アメリカ史上唯一、四選された大統領であり、米国史上唯一の重度の身体障害を持つ大統領でもある。日中戦争で中国を侵略する日本に圧力をかけ、開戦に踏み切るように仕組んでいったのは有名な話である。1944 年 11 月 7 日に先例のない 4 選を果たしたが、肖像画の制作途中、1945 年 4 月 12 日の昼食前に脳卒中で死亡した。
33	ハリー・S・トルーマン	1945 年	大統領の死により副大統領から昇格した七人目の大統領。彼が広島、

		民主党	長崎への原子爆弾投下を指示した。公民権革命を行った初めての大統領である。第二次世界大戦の終了、冷戦の始まり、国連の創成および朝鮮戦争など、トルーマンの大統領職は非常に多事だった。
34	ドワイト・デーヴィッド・アイゼンハワー	1953 年 共和党	第二次世界大戦中のヨーロッパの連合軍最高司令官。大戦終了後の東側諸国と資本主義陣営との冷戦の時代の中で、東南アジア条約機構を形成し、スエズ危機を含む中東問題を乗り越え、核兵器競争の停止の合意に達する可能性を望んだ。
35	ジョン・フィッツジェラルド・ケネディ	1961 年 民主党	暗殺された四番目の大統領。選挙で選ばれた大統領のうちで現在のところ最も若く、当時 43 歳であった。清新なイメージのリベラル派で、いくつかの歴史に残る演説を残した。キューバ危機を回避。ベトナム戦争早期撤退を計画。任期半ばの 1963 年にダラスにて暗殺された。
36	リンドン・ベインズ・ジョンソン	1963 年 民主党	大統領の死により副大統領から昇格した八人目の大統領。ベトナム戦争を始め、1965 年から 1968 年まで、北爆やアメリカ軍兵士の増強などを行い戦争を連続的に拡大した。それは何千ものアメリカ軍兵士の死と、およそ 60 倍のベトナム人の死に帰着した。アメリカ兵の戦死者がベトナムで増え、TVで戦場の模様が放映されるとともにジョンソンの人気は低下した。1968 年には北爆の中止を表明するとともに、次の大統領選挙への不出馬を表明することとなった。また、ケネディ暗殺への関与疑惑の噂は現在も続いている。
37	リチャード・ミルハウス・ニクソン	1969 年 共和党	ウォーターゲート事件により辞任、任期中に辞任した唯一のアメリカ大統領である。就任後は東側諸国に対して硬直的な態度を取り続ける國務省を遠ざけ、官僚排除、秘密主義外交を主とするホワイトハウス主導の外交を展開し、国家安全保障担当大統領補佐官のヘンリー・キッシンジャーとともに、これまでの封じ込め政策に代えて融和的なデタント政策を推進する。ベトナム戦争における南ベトナムからのアメリカ軍の完全撤退や、当時ソ連と対立していた中国共産党率いる中華人民共和国の承認など、主に外交面で高い評価を受けている。
38	ジェラルド・ルドルフ・フォード・ジュニア	1974 年 共和党	ニクソンの辞任をうけて大統領に昇格したため、大統領選挙を経ずに大統領になった(唯一のケース)。また現職で戦った 1976 年の大統領選では敗れているので、大統領選に一度も勝った事がない大統領(唯一のケース)となった。1974 年 11 月 18 日に現職のアメリカ大統領として初めて日本を公式訪問した。
39	ジェームス・アール・カーター・ジュニア	1977 年 民主党	冷戦のさなか「人権外交」を標榜し、中東において長年対立していたエジプトとイスラエル間の和平協定・キャンプデービッド合意を締結させたなど、中東における平和外交を推進した。なお 1977 年 3 月 16 日に、アメリカ大統領として初めてパレスチナ人国家建設を容認する発言をした。また、大統領任期中は「人権外交」を標榜しながら大した果実を得られず、イラン革命やソ連のアフガニスタン侵攻を許したが、大統領職を退いてからは、世界を驚かせる外交手腕を見せた事から「数十年間にわたり、国際紛争の平和的解決への努力を続け、民主主義と人権を拡大させたとともに、経済・社会開発にも尽力した」ことを評価され 2002 年にノーベル賞平和賞を授章した。
40	ロナルド・ウィルソン・レーガン	1981 年 共和党	一期目は「レーガノミクス」に代表される大幅減税と積極的財政政策でアメリカに長期の好景気をもたらし、再選された二期目は、イラン・コントラ事件に代表される数々の政治スキャンダルに揉まれ、政権の体質に対する各方面からの厳しい批判が目立った。外交ではデタントを否定して、ソビエト連邦を「悪の帝国」と名指しで非難、「力による平和」戦略でソ連と共産主義陣営に対抗する一方、「レーガン・ドクトリン」を打ち出して世界各地の反共主義運動を支援した。
41	ジョージ・ハーバート・ウォーカー・ブッシュ	1989 年 共和党	アメリカの大統領として、湾岸戦争で国際連合をリードしたことで最もよく知られている。ただしイラクのクウェート侵攻前夜には既にその兆候を掴んでおり、あえてフセインの侵攻を容認したとも言われている。サッダーム・フセインの率いるイラク軍が 1990 年に隣国クウェートへ突如侵攻すると、国連はイラクの侵略行為を非難する決議を発表。米軍を主とする多国籍軍はクウェートからイラク軍を撃退し、サウジアラビアの防衛を保証した。軍事行動の成功直後ブッシュの支持率は急上昇した。しかしその後、アメリカの景気は後退していった。
42	ウィリアム・ジェファソン・クリントン	1993 年	経済最優先を掲げたクリントン政権はその当初から経済政策に力を入

		民主党	れる。アメリカ経済の中心を重・鉱工業からIT・金融に重点を移し、第二次世界大戦後としては2番目に長い好景気をもたらし、インフれなき経済成長を達成した。そして、教育を重視し、IT教育の推進、就学前児童の早期教育プログラムの拡大、移民の英語教育の充実を図った。また、アル・ゴアの提唱した「情報スーパーハイウェイ構想」を推進し、IT産業の育成と、IT化による生産性向上(ニューエコノミー)を押し進めた。しかし、外交は不得意分野で、民主党にも外交に関する人材は不足していたために、その外交姿勢は、場当たりのだという批判にさらされた。尚、1998年にはモニカ・ルインスキー事件が発覚し否定していた「ルインスキーさんと不適切な関係を持った」と告白せざるを得ない状況に追い込まれたスキャンダルは有名である。
43	ジョージ・ウォーカー・ブッシュ	2001年 共和党	2000年の大統領選挙で当選し、2004年の大統領選挙で再選した。第41代大統領ジョージ・H・W・ブッシュの長男である。大統領としては、2001年に1兆3500億ドルの減税プログラムを、2002年に落ちこぼれを作らないための初等中等教育法に署名した。2001年10月、同時多発テロ後、ブッシュは世界的なテロとの戦いを発表して、アフガン侵攻でタリバン政権を倒し、アル・カイダを破壊してオサマ・ビン・ラディンを逮捕することを命じた。2003年3月にブッシュはイラク侵攻を命じ、イラクが国際連合安全保障理事会決議1441に違反しており、戦争がアメリカ合衆国の保護のために必要だったと主張した。 再選後のブッシュはますます激しい批判を受け、彼の国内の支持率は、同時多発テロ直後の90%から、リチャード・ニクソン以来のどの現職大統領よりも不評で、第二次世界大戦後から3番目に最悪な支持率20%不支持率65%にもわたった。国際的には、ブッシュは、フランスとドイツで87%、スペインで88%の不支持で、最も嫌われる政治家のリストの先頭に立っている。
44	バラク・フセイン・オバマ・ジュニア	2009年 民主党	アメリカ合衆国の政治家。第44代アメリカ合衆国大統領当選者。現在イリノイ州選出のアメリカ合衆国上院議員である。政党は民主党。 現在、唯一のアフリカ系アメリカ人の上院議員であり、選挙により選ばれたアメリカ史上3人目のアフリカ系上院議員でもある。 1961年8月4日ハワイ・ホノルル生まれ。父親はケニアはニヤンゴマ・コゲロ生まれのイスラム教徒(ムスリム)であり、母親はアメリカ・カンザス州出身の白人。イスラム教の戒律では、ムスリムの子はムスリムであらねばならないとされているが、本人は現在キリスト教徒(プロテスタント)である。これについてオバマは自伝で「父はムスリムだったが殆ど無宗教に近かった」と説明している。実際には、ハワイにおいて白人の母親と母親の両親によって育てられたという。6歳から10歳までは、母親と、再婚相手のインドネシア人の義父とともに、インドネシアのジャカルタに在住していた経験もある。 コロンビア大学を卒業後にシカゴに渡りNPOに勤務した後、ハーバード大学ロースクールに入学。アフリカ系として史上初の「Harvard Law Review」の編集長を務めた。